



Number 25

June, 2021

ジョージ・エリオットと私

植松 みどり

恩師の近藤いね子先生に誘われて、創立記念のジョージ・エリオット協会の大会に参加し、会員になりました。私の文学の中心は、Joseph Conrad や E. M. Forster ですが、その頃から英国小説の視点を、大きな歴史から小さな社会史へと動かしたくて、ヒロインを中心に Funny Burney、Maria Edgeworth、そして Jane Austen、Brontë 姉妹にまでようやく到達したところでした。ほとんど G. エリオットの研究らしいこともしておりませんでした。仲間の方たちは研究、読書会や翻訳などに努力され、活発に活動していました。私には G. エリオットは高嶺の花すぎる存在でした。けれども他の研究会にはろくに出席したこともないのに、第一回の年次大会に出席してこの会の熱意と自由さにひかれました。そのときの二次会は講演者の小池滋氏の発案で、カラオケでした。執行部の方々に誘われ同行しました。何か型破りの協会の楽しさに嬉しい予感のようなものを感じたのです。英文学者の伝統の「オベロンの会」などのある意味、無頼の集まりを誇りに思う方も周囲にはいらして、文学が取り澄ましたものになってしまったと嘆かれ、芸術としての文学が教育としてのものをはるかにしのぐと力説されていたように思います。もっとも私などは、どちらにしる、それほど意識の深さなどなくて、ただ、その作家が面白いか、作品が自分の興味を刺激するか、の初歩的な段階でしたので、どのような研究会に対しても後ろめたいような気持ちが優先した怠け者で、いまでも恥ずかしく思います。そんななか、ジョージ・エリオット協会では、シンポジウムなどにも出していただき、また、論文集にも書かせていただきました。協会に入ること自体がとても厚かましいことと思っていたのに楽しみが増し、いつの間にかどっぷりと浸っていました。

その後、「週刊朝日百科」(世界の文学、ジョージ・エリオット)の原稿執筆のため、イギリス、ドイツと G. エリオットの道を行ったことは楽しい思い出でした。その生涯を、(フィールドワークというよりも)フットワークに近い旅をしながら、ドイツ文学の若い研究者と一緒にたどりましました。コヴェントリー、ナニートン、ロンドン、ワイマールと、G. エリオットの足跡を一つ、一つ行きました。ちょうどアメリカに行かれていた Kathleen Adams さんのお住まいを外側から見ても来ました。コヴェントリーやナニートンは本当にのどかで、穏やかで、それまで訪ねていたブロンテの北国とはやはり微妙に異なった暖かみが感じられました。古い街のたたずまいや、田園の自然にひかれる G. エリオットがドイツのイルム公園の川を見ているうちに、きっとナニートンのあの親しんできた「同じ自然の」田園の小川を思い出していたのかと勝手に重ね合わせている自分がいました。『フロス河畔の水車場』の冒頭の場面のリップル川、「なんとかわいり川なんだろう」と述べる G. エリオットの思いがそのままあふれるように思います。

ただいま、『フロス河畔の水車場』の翻訳を最終グラ校正に入っている段階なのですが、そんなかわいり川が恐ろしい自然の脅威に変化し、聖書で神の与えた罰は、G. エリオットにより自然と人との独特の位置関係という、個別の宗教に縛られない大きなテーマへと変化し、作者ならではの「真実」の問題に描かれていることに感服しています。マギーに対する思いのみに集中していた私の方向は、この十年近くずっと関わってきた翻訳によって確かに開かれました。最初はマギーという「お嬢さまヒロイン」には、ダブルやレッシングのいう列につながるものがあるというだけの、私の読み方でした。

もともとマギーの感覚、その感情面での「ほんもの」の描写に打たれ、イギリス文学の中でこの作品が何よりも好きな小説でした。ときにリアリズム作家と G. エリオットは呼ばれていますが、彼女の場合はいわゆる世界の文学というリアリズムとは少し異なっていて、ある田園地帯のある時間が、時代を越え場所を超えた「写実」につながり永遠の命をつな

いでいくのではないかという思いです。そのため何よりも作者の資質が重要になり、作者はその部分では間違えることができません。G. エリオットのすごいところはその判断に、21 世紀の今でも間違えていないと私どもが反応できることでしょう。「はみ出したものへの共鳴」をこれほど真剣に述べられる作家が他にいらっしゃるのでしょうか。異端を排除する当時の主張に対する作者の、フィリップへの「思い」にすごさを感じました。ずっと翻訳出版されなかったのは、この部分の読者の反応を出版社が恐れたためではないかとも思います。ここに当協会の著作集の意味もあり、私の責任も重い仕事でした。

今回、翻訳をしながら、訳者がどこまで自由にできるかということも辛い課題でした。マギーの父親は、“miller & malter (製粉と酒つくりを生業とする)”であり、当時の社会状況を考えると、実は酒を卸していることによってこそ、タリヴァー家は裕福な生活環境にいられ、ここはもっと強調されるところでしょうか。かなりの農地も持ち、代々その地方の名家であるところから、マギーの立ち位置を今までよりも少し上位に持ってきました。また、マギーのおじやおばとの関係を定めることは、さらに大変、思うようには解決していません。グレッグ家とプレット家の伯父、伯母の優位は変わりませんが、ディーン家に関しては、決め手となるものはありません。モデルといわれている G. エリオットの母の、4 姉妹の順位からは明らかにタリヴァーの奥さんが一番下ですが、それ以外では「一番弱い」という表現のみ、マギーの母とディーン夫人の上下は、子供の年齢や結婚相手などを考えると、どうしてもタリヴァーの奥さんの方を上にする方が自然に思えます。結局は下二人の姉妹関係については、作者はそれほど重要視しなかったという結論にしました。既存の素晴らしい翻訳ですら、作中で混乱しているものもありました。ディーン夫人のほうを下にする家族関係も刺激的です。

苦しみの多い翻訳でしたが、もちろんたくさんのお楽しみもありました。この作品の基軸をギリシャ悲劇の『アンティゴネ』におき、丘の上にそびえる赤い屋根の家々のセント・オグズズ町の町から、テニスン『イノック・アーデン』(1864)の冒頭場面を思い、裕福な粉屋の息子の名前がフィリップであることなどから、『イノック・アーデン』の切ない恋物語は『フロス河畔の水車場』のマギーの苦しみがきっかけの、男の人の主人公版なのかなとか勝手に遊びました。

最後に、この翻訳をさせていただいた皆様へ心より感謝いたします。

特別企画 「コロナ禍とわたし」

コロナウイルスの脅威は収まる気配を見せず、会員の皆さまも先行きの見えない生活をお送りのことと思います。大学の授業は対面から遠隔へと変わり、多くの先生方にとって例年以上に慌ただしい1年になったのではないのでしょうか。また、全国大会が延期され、年に一度の学際的な交流ができなかったのはとても残念なことでした。

一方、2020 年の George Eliot は「ロックダウンの友」とも呼べる存在になっていたようです。2020 年 4 月に BBC Radio 4 は *The Mill on the Floss* のラジオドラマの放送を開始（後に Best Radio Drama 2020 を受賞。全 10 回のエピソードは 2021 年 5 月現在も視聴可能）。同じ頃、*The Guardian* の記事 (Book That Made Me) では、アイルランドの若手作家 Sally Rooney が *The Mill on the Floss* を読み、Philip が Maggie に送った手紙に涙したと述べています (2020.04.17)。

Middlemarch の場合、ロックダウンの今こそ読むべき “thick book” (通称「鈍器本」) の代表として定着し、実際に読み終えた女性は “A marvel in fact.” と感想を記しています (*The Guardian*, 2020.11.06)。ちなみに *Middlemarch* は、2020 年 8 月に Women’s Prize for Fiction の 25 周年企画 #ReclaimHerName によって、George Eliot 作ではなく本名の Mary Ann Evans 作で出版されました。(写真の中にある分厚い本が *Middlemarch* です。)



会員の皆さまにとって、2020 年はどうのような 1 年だったのでしょうか。今回、学会報告記の代わりに特別企画を用意しました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

(写真は <https://www.womensprizeforfiction.co.uk/features/features/reclaim-her-name> から)

コロナ禍下の想念

関西大学名誉教授 宇佐見 太市

昨春、満 70 歳の定年退職と同時にコロナ禍に遭遇。生活設計の抜本的修正と自己の研究軌跡の回顧・自省。喪失・失意から再建への志向。自縛自縛の伝統的諸規範からの解脱。森羅万象に対する懷疑と審究。孤心・思惟の愉悦。社会的倫理観と文学的営為の論究。精神の領分の保持に精進。海老根宏著「ジョージ・エリオットにおける現実と非現実」を味読。氏の 19 世紀英国小説の総括に感銘。正鵠を射た「人文知」を再認識。1 年を経た今、期するは一陽来復の春と本学会員の健康。

現代『デカメロン』

東京大学名誉教授 海老根 宏

老人ホーム暮らしも五年目になりました。非常事態は解除になりましたが施設の方では警戒を崩さず、外部からの訪問は一切禁止、全館しんかんとしています。しかし私はもともと毎朝のラジオ体操のほかは、施設のサークルには縁がなかったので、あまり変化を感じていません。かえって周囲の動きに影響されずに本が読めます。かつての『デカメロン』のような、病禍を逃れた閑暇の生活と言えるかも（強がりかな）。

心の中で旅をする

神戸女学院大学 佐藤 エリ

世の中を目まぐるしく変えるきっかけとなった新型コロナウイルスの世界的大流行。授業はオンラインに切り替わり、滅多に会うことのなかった友人と zoom を通じて頻繁に話すようになった。海外への渡航が制限される中、たびたび過去の旅に思いを馳せた。2019 年 9 月、私はエリオットが「イタリアの回想録」で書き残している地を何箇所かめぐった。私の目の前に広がる光景が、エリオットの描写とぴたりと一致した瞬間、時空を超えて彼女の目に映ったものを共有する感動に包まれた。頻繁に旅をしたエリオットは今の状況をどう捉えるだろう、そんなことをふと想像する。

新型コロナと私

元駒澤大学教授 高野 秀夫

私は、長い間、毎朝部屋の窓を開け、新鮮な空気を室内に入れるようにして来ました。その風が英国の大地から吹いてくると想うと、楽しくなり心が浮き浮きします。それは英国の美しい田園風景への憧憬によるものかも知れません。

今、世界では 100 年に一度の疫病が猛威を振るっています。中世には歴史上最大級のペストがヨーロッパに流行った。その時に生まれた物語が、「英詩の父」であるジェフリー・チョーサー（1340 - 1400）の処女作『公爵夫人の書』です。英国王ヘンリー4世の父の妻で、チョーサーの妻の姉もペストの犠牲になりました。現実に妻を亡くした公爵の深い悲しみの思いが、同じ境遇にある物語の主人公の悲しみと共鳴しているように感じられます。ジョージ・エリオットの処女作は『牧師補の諸相』です。最初の物語「エイモス・バートン」には、己の愚かさ故に、最良の妻を亡くした主人公の深い悲しみが描かれています。エリオットが人生の最良の伴侶、ジョージ・ヘンリー・ルイスを亡くした時に読んだ本が『公爵夫人の書』です。エリオットは「愛の詩人」とも呼ばれるチョーサーの英文学の伝統をしっかりと引き継いでいるのです。

今は、まず Covid-19 に悩まされることのない日常が、早く戻ることを願っています。

コロナ禍でのオンライン授業

龍谷大学 谷 綾子

コロナ禍で急遽オンライン授業をすることが決まったのはちょうど去年の4月の頃でした。龍谷大学は教員へのフォローが手厚く、オンライン授業のマニュアル作成や説明会の実施、サポートデスクの立ち上げなど、迅速な対応に助けられました。学生も教師も手探りの状態での授業でしたが、双方とも徐々にデジタル化していき、最終的にはパソコンだけではなく、PowerPoint のスライドだけでは説明が難しいところを iPad のメモに手書きで説明を行うという授業スタイルに落ち着きました。コロナとの闘いはまだまだ続きそうですが、去年培ったチャレンジ精神で乗り越えていきたいと思っています。

巣ごもりは千載一遇 ゆめ叶へ『白鯨』読了せし友の言ふ

定年後、何か新鮮な未知のものを習得したく、ピアノと薔薇の育成を始め、花と音の喩えようもない美しさに在宅介護の閉塞を随分慰められました。特に四年前、母の逝去後に始めた短歌にはすっかり魅せられています。昨年の自粛期間には一日一首を心がけ、コロナを主題に連作を作りました。反故にするのも嫌だったので、「令和二年——コロナの春」と題して所属の結社『潮音』の新春短歌賞に応募したところ、準入選に滑り込み、まさにビギナーズ・ラックで驚いています。最後に G. エリオットの方は、ヘイト編集の『書簡集』を興味深く読んでいます。

「リモート」を楽しむ

福岡大学 濱 奈々恵

遠隔授業に決まった時、「通勤時間がない＝本が読める！」と喜びましたが、大間違いでした。自宅で授業ができる便利さはあれど、オンとオフの切り替えが難しく、パソコン作業だけで日が暮れる毎日…。唯一の楽しみは、NHK で放送された「赤毛のアン」のドラマでした。最終話、空想好きなアンに1冊の本が渡されます。作者は George Eliot ! “I don't know him.”と話すアンに、本を渡した女性は George Eliot の本名と性別を明かし、「あなたが本を書く時には本名で書くのよ」と助言します。原書にはないやり取り。そもそも日本の視聴者で George Eliot に反応を示した人はどの程度いたのでしょうか。一瞬でしたが、英語を読むことで国を、George Eliot を知ることで時代を越えた遊びを楽しみました。

コロナ禍と私

徳島文理大学 中島 正太

2020 年にはアイルランドの若手作家 Sally Rooney の *Normal People* を読みました。エピグラフは『ダニエル・デロンダ』からの一節で、理想と現実の間で葛藤するヒロインがエリオットの作品を思わせるものでした。また同年に見た映画『ストーリー・オブ・マイライフ～わたしの若草物語』には、作中人物が浜辺で『フロス河の水車場』を朗読するという、原作にない場面がありました。ジョージ・エリオットはこの 2020 年代にも間違いなく息づいている！と嬉しく思っています。

2019 George Eliot Bicentenary Conference at University of Leicester

元鹿児島国際大学大学院教授 樋口 陽子

Marianne Evans 14 歳の未完の短編 *Edward Neville* (1834) が William Coxe の旅行記 (1801) に多く負い、Henry Marten (1602-80) の *Chepstow Castle* 幽囚を絡めた作品であること等を、Mrs Mari Seaward に卓上映像機の操作をお願いして口頭発表した。これは暮に Paul Davies, ed. *Still Crazy About George Eliot 200 Years Later* の Ch. 11 として出版され、*The George Eliot Review*, No. 51 に、珍妙な短評が載った。

食堂で名札を見て、「30 年前にケムブリッジにいたでしょ。帰国の時に洋服をくれたわよね」と話しかけてくださったのは Dr. Hao Li だった。この僥倖には、驚きと感謝のみ。

新型コロナと YouTube

白百合女子大学 矢野 奈々

新年度が始まり、久々に対面授業をされている先生方の一方で、昨年に続き遠隔授業の為に動画作成等をされている先生方もいらっしゃると思います。私もこのような状況にならなければ、動画作成をすることなどはなかったと思います。授業準備の参考として、YouTube を閲覧していくうちに、若者が TV よりも YouTube を好む理由や人気クリエイターの巧みな技など新たな学びが沢山ありました。そして、YouTube にはイギリス文学に関するチャンネルが少ないことにも気づきました。

一般の方や学生を対象に今までとは違ったアプローチをしたら、もしかしたらエリオットにも興味を持ってくださる方が出てくるかもしれないと思い、今年に入り「英国文学講座」を開設致しました。お恥ずかしい点多々ありますが、ご覧いただけますと幸いです。(https://www.youtube.com/channel/UCyi3mYvg9XdqHlhNblY2TJQ)

シンポジウム要旨

F.R. Leavis は、その著 *The Great Tradition* において、エリオットをオースティンの伝統に連なるものとして、エリオットに対するオースティンの「深遠なる重要性を帯びた影響」を示唆しているが、示唆に止めている。偉大な独創的作家間の影響を明確にすることなど困難極まりないというのが彼の理由だが、エリオットとオースティンはともに英文学の「偉大な伝統」上にあり、19世紀を代表する2作家の関係性の謎には、今も私たちを魅惑してやまないものがある。本シンポジウムは、エリオットとオースティン、2つの協会の共催であり、各発題の着眼点も以下のように多岐に渡る。

川津氏は、Wollstonecraft の *A Vindication of the Rights of Woman* を介在させて、女性の教育と生活の資の獲得のありようを、*Emma* と *Middlemarch* の家庭教師の描写において比較・検討し、また土井氏は、オースティンとエリオットの少女期の創作に焦点をあて、後年の小説作品にそれらがどのように結びついていくかを考える。そして永井氏は2人の女性作家に共通してみられる匿名性が「視点」の問題と密接に関係していることを指摘して、両者の接点を「視点」という観点から考察し、また新野氏はヒロインをはじめ登場人物たちの様々なく見誤り>をテーマに、オースティン作品がエリオットの創作活動にどのような影響を与えたのかを探る。

それぞれの協会に属する講師のこうした自由で多彩な切口によって、エリオットとオースティンは、ときに激しく、またゆるやかに交差しながら自らを浮き彫りにしていこう。フロアも巻き込んでの活発な議論のうちに、これら2人の作家間に文学的化学反应のようなものがさまざまに生まれ出てくれればと願っている。(惣谷美智子)

第24回全国大会特別講演のご案内

本年度の特別講演には、廣野由美子先生(京都大学教授)を講師としてお招きします。先生は19世紀イギリス小説をご専門とし、これまでに『批評理論入門』(中公新書)、『深読みジェイン・オースティン』(NHKブックス)、『謎解き「嵐が丘」』(松籟社)などのご著書、および、ティム・ドリン著『ジョージ・エリオット』(彩流社)、『ミドルマーチ』(光文社古典新訳文庫、全4巻完結)などの翻訳書を出版されました。特別講演では「ジョージ・エリオットはジェイン・オースティンから何を受け継いだのか?」という問題について、〈分別〉と〈多感〉をキーワードに論じていただく予定です。『ミドルマーチ』と『分別と多感』の比較考察、先生が両作家との出会いから文学研究を始めた経緯、『ミドルマーチ』の翻訳作業をとおして発見したことなども披露いただけるようです。皆様、奮ってご参加ください。

第24回全国大会研究発表者の募集

発表テーマ: ジョージ・エリオットに関連したもの 発表者数: 2~3人(予定)
応募資格: 日本ジョージ・エリオット協会会員 応募締切: 7月25日
発表時間: 30分(発表25分、質疑応答5分) 時間厳守でお願いいたします。
レジュメ: ワープロA4版で、約400字程度。発表題目には、英文名も添えてください。
※ 原稿には、氏名・住所・所属・電話番号・メールアドレスを明記してください。
宛先: 〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1 徳島文理大学香川校 中島正太研究室内
日本ジョージ・エリオット協会事務局 / E-mail: georgeeliot.japan@gmail.com

応募は郵送、またはメールで、お申し込みください。応募者多数の場合は、調整させていただきます。

2022年度『ジョージ・エリオット研究』第24号への投稿論文募集

2022年11月に発行予定の学会誌『ジョージ・エリオット研究』第24号の投稿論文の締め切りは2022年4月1日(金) 厳守です。奮ってご応募ください。投稿規定は、役員名簿の下に掲載されております。投稿規定およびチェックシートは、協会のホームページからダウンロードすることもできます(<http://www.g-eliot.jp/ronshyu.htm>)。論文の他に書評を募っております。新刊書などの書評をご希望の方は、編集委員長の大嶋浩先生、もしくは事務局まで、お早めにお申し出ください。

会費納入のお願い

会費納入につきまして、お願いいたします。年会費および振込先は、以下の通りです。

一般会員	7,000 円 (国内会費 5,000 円と英国本部会費 2,000 円)
英国本部に登録された終身会員	5,000 円 (国内会費のみ)
学生会員 (大学院生、学部生など)	2,000 円 (本部会費を含む)

振込先 (郵便振替口座) : 00960-0-105579 日本ジョージ・エリオット協会

*郵便局内にある振込用紙、またはゆうちょダイレクトをご利用ください。

(2020 年度より、協会から振込用紙をお送りすることは見合わせております)

*手数料はご負担いただいております。

なお、事務処理の都合上、9月末までにお振込をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。ご承知の通り、本協会は英国ジョージ・エリオット・フェローシップの支部をかねており、毎年1月に英国本部に会費を送金しております。会費納入が年を越しますと、本部への送金に間に合わず、本部からの郵送物が受け取れなくなります。また、退会につきましてもお申し出がない限りは、遡って未納分の会費を納入していただくこととなっておりますので、くれぐれもご注意ください。

新入会員の確保について

現在、本協会は、一般会員 71 名、終身会員 13 名、学生会員 2 名、合計 86 名となっております。年々数名の会員が加入される一方で、退会される会員もおられ、全体として会員数は漸減傾向にあります。100 名を切る状態が続きますと、日本学術会議から協力学術研究団体としての認定を受けられなくなる可能性がありますので、会員の皆様におかれましては、新入会員確保にご協力を賜りますようお願いいたします。この問題に関するご意見等がございましたら、事務局までお知らせください。

事務局夏季閉鎖のお知らせ

例年にならい、夏季休暇のため8月1日から8月31日まで、事務局を閉鎖いたします。緊急のご連絡は、事務局中島正太のメールアドレス (nakajima@kgw.bunri-u.ac.jp) 宛てにお願いいたします。

📖新刊書等のご案内📖

- ★ 廣野由美子 訳『ミドルマーチ 3』〈光文社古典新訳文庫〉(光文社、2020.07.20) 493 pp.+1 p. [編集部] 「第5部 死の手」(pp. 7-232)、「第6部 未亡人と妻」(pp. 233-453)、「読書ガイド」(pp. 454-93)
- ★ 廣野由美子 訳『ミドルマーチ 4』〈光文社古典新訳文庫〉(光文社、2021.03.20) 485 pp.+1 p. [編集部] 「第7部 二つの誘惑」(pp. 7-203)、「第6部 日没と日の出」(pp. 205-431)、「読書ガイド」(pp. 432-71)、「ジョージ・エリオット年譜」(p. 472-81)、「訳者あとがき」(482-85)
- ★ 廣野由美子 著『小説読解入門—『ミドルマーチ』教養講義—』、中公新書、中央公論新社、2021年4月25日発行

文献委員の募集及び文献情報収集への協力依頼

現在の文献委員 (3 名) は今年度をもって委員を退く予定です。来年度以降、文献委員の仕事を引き継いで、日本におけるジョージ・エリオットの文献情報の収集を担当していただける方がおられましたら、事務局までご連絡願います。

また、日本におけるジョージ・エリオットの文献情報をお持ちの方は、事務局にその情報の提供をお願いいたします。

19 世紀イギリス文学合同研究会準備大会について

ディケンズ・フェロウシップ前会長の新野緑先生より 19 世紀イギリス文学合同研究会の初回準備会（会場：神戸外国語大学、責任者新野緑先生）のご案内が 2020 年 9 月 28 日にありました。

ジョージ・エリオット協会としては執行部、顧問、運営委員会で話し合い、合同研究会に正式参加するかどうかは直近の役員会（2021 年度役員会）を待って決めることとし、それまではペンディングとするが、準備会には参加するというコンセンサスをすでに得ています。新野先生にはその方向でお返事を差し上げました。準備会のシンポジウムについては、正式に参加を決めているディケンズ・フェロウシップ、ハーディ協会、オスカー・ワイルド協会、ギヤスケル協会の 4 学会からパネリストを出して行くことはすでに決まっています。これら 4 学会の間には開催は年 1 回のコンセンサスがあるようです。シンポジウムのテーマは検討中のようです。また、各学会から 1 人の研究発表も、発表者、タイトル、司会者も決まったようです。これについては、大会プログラムが公表される折に、メーリングリストでご案内します。

合同研究会日程:

19 世紀イギリス文学合同研究会準備会が当初予定されていた 2021 年 6 月 5 日は断念することになり、代わりに同年 9 月 18 日（土）に、対面であれオンラインであれ、開催することに決まりました。ジョージ・エリオット協会から研究発表の応募はシャーウッド・岩館あけみさんからありました。すでに準備会担当者に届け出ています。とにかく、なるべく多くの会員が参加してみて、合同研究会へ正式に加わるかどうか、複数の目で判断材料を得るのが肝要かと存じます。ジョージ・エリオット協会の高齢化が進んで活動力、財政力は衰微する趨勢にあります。参加するかどうかは今後の活動を担う中堅、若手の方々の意向が大切になります。そのような判断から、執行部としては慎重にコンセンサスを得る努力を続けたいと思っています。合同研究会の今後の準備状況については、引き続きメーリングリストで情報提供させていただきます。

2021 年 5 月 14

会長： 福永 信哲
副会長： 大嶋 浩
副会長： 田中 淑子
運営委員長： 会田 瑞枝

なお、2020 年 1 月に新野先生に提出しましたジョージ・エリオット協会の 19 世紀イギリス文学合同研究会についての見解を、再度おさらいのためにご紹介します。

見解1:

合同研究会では 19 世紀小説の全体とは言わずとも、個別作家を超えるような問題提起が暗に期待されるように思います。また別の観点から考えると、大学院で研究や、それから少し上の段階では、個別作家の研究者だけの集まりのほうが、より細かい反応や指摘などを得られる可能性が大きく、若い研究者にとっては、広すぎる研究分野よりも、むしろ役に立つかもしれないと思います。このことから考えて、個別作家研究の方に重点を置き、視野を広げる合同研究会は二年に一度くらいが適当と思うのです。

またこれは今の議論とは逆になりますが、個別作家の研究学会には属したくなくて、合同研究会だけに属したい、あるいは出席したいと言う人も出てくるのが予想されます。これらの方にはどのような会費を払ってもらうか、その点が考慮されていないようです。これはそんなに重要な事項ではないですが。

費用負担については、合同研究会の趣旨からして、一部は（1～2 万円の）一律負担とすべきでしょう。金額は協議で決めるとして、ほかの方式は人数の多い学会におんぶするようで好ましくないとします。人数で決めるのも、各学会の独立性を損なうのではないのでしょうか。

見解2:

研究発表や講演・質疑応答の内容がしっかりしていて、学ぶことが多くあることが長い目で見て健全さを保証する裏づけになると思います。そのためには、発表、講演内容に関する知見を持った人が少なからず臨席していて、時に率直なやり取りがあることが大切だと思います。

現代の大学教員は、忙しい中で研究成果を多く求められています。文学作品をしっかりと味読するゆとりは少なくなっていないかどうか、心配しています。わたしどもの研究分野は効率主義にはなじまない面があるように思われます。しっかり時間をかけて作品と向き合わないと、作家や時代を深く理解することは期待できないからです。個々の作家を

George Eliot Newsletter of Japan 第25号

発行者 日本ジョージ・エリオット協会

代 表 福永 信哲

編 集 濱 奈々恵

事務局 徳島文理大学香川校 中島正太研究室内

〒769-2193 香川県さぬき市志度 1314-1

TEL 087-899-7152 (直通)

E-mail georgeeliot.japan@gmail.com

Homepage <http://www.g-eliot.jp/>

振替口座番号 00960-0-105579

発行日 2021年6月1日